

防災まちづくりかわら版

岡崎市 元能見北地区

平成 27 年度 防災まちづくり会議の報告

主催：元能見北、岡崎市

平成28年
5月発行

「平成 27 年度 防災まちづくり会議」を元能見北地区で実施しました！

平成 25 年度から取り組んできた防災まちづくり。今回はそれらを踏まえ、改めてわたしたちが住む町に潜む危険性を知り、対策を深めるための話し合いを行いました。

日 時：平成 28 年 2 月 21 日（日） 午後 2 時～午後 3 時 30 分

会 場：広幡学区市民ホーム 1 階 図書室

参加者：9 名

- 内 容：① 災害危険度判定について
② わが家の“簡単”防災チェック
③ 今後の取り組み方について



① 災害危険度判定 について

「災害危険度判定」とは、岡崎市が、大規模地震災害（南海トラフを震源とする地震）の被害想定を基に、4つの項目を総合的に判断し、市内の各町丁目の防災性能を評価したものです。

- 項目は①延焼の危険性 ②消防活動の困難性
③道路通行の困難性 ④一時避難の困難性です。

元能見北地区は、市内でも延焼の危険性と避難・消防活動の困難性が高い地域だと説明しました。

総合災害危険度



② わが家の“簡単”防災チェック

さらに、「岡崎市防災ガイドブック」等を参照に、個人でどのような取組ができるか、考えました。その中で、「自宅の耐震チェック」や「防火チェック」などを行い、個人でできる防災・減災対策を確認しました。

ご自宅の耐震チェック

- 建設時期が1981年（昭和56年）6月以降である。
- 過去に大きな震災に遭ったことがない地域である。
- 増築していない。もしくは、建築確認などの必要な手続きを行って増築した。
- 屋根の軒先や床、柱など傷んだところはない。もしくは、傷んだところは、そのつど補修している。
- 建物の平面はどちらかと言うと長方形に近い。
- 一辺が4m以上の大きな吹抜がない。
- 2階の外壁の真下に1階の内壁、または外壁がある。もしくは平家建である。
- 1階の外壁の四方にはどの面にも壁がある。
- 屋根は、瓦など比較的重い葺材だが、1階の壁が多い。または、スレートや鉄板直銅板葺など、比較的軽い屋根葺材である。
- 鉄筋コンクリート造の基礎に固定されている。

※「岡崎市防災ガイドブック」より抜粋

③ 今後の取り組み方 について

元能見中地区及び福寿町の防災・減災への取組を報告し、元能見北地区では何を行うか、話し合いました。

<主な意見>

- 他の地域からの延焼も考えられるため、どこで火を食い止めるかが課題。
- 緊急地震速報などは小学校のサイレンが聞こえる。油断せずに意識をしておく。
- 防災マップ、消火器の位置確認などは定期的にチェックをしている。
- 老老介護、独居老人の人にも伝えて、火を起こさないように注意をしたい。
- もともと住民のつながりが強い。これを活かして、町ぐるみで防災・減災に取り組む。 など

■問い合わせ：岡崎市役所 市街地整備課 計画班
電話 23-6280

防災まちづくりかわら版

岡崎市 元能見中地区

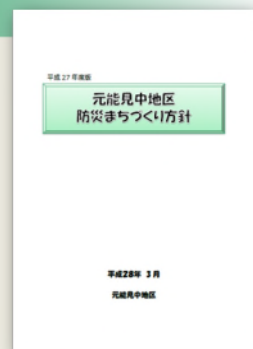
主催：元能見中、岡崎市 「防災まちづくり方針」策定の報告

平成28年
5月発行

「防災まちづくり方針」を元能見中地区で策定しました！

元能見中地区には、古くからのコミュニティや文化が残る一方で、狭い道路や木造の建物などが多いことから、地震等が発生すれば大きな被害が生じるおそれがあります。

そのため、平成25年度から地域住民主体である「防災まちづくり」に取り組んでおり、昨年度も3回の「防災まちづくり会議」を開催し、そのまとめとして「防災まちづくり方針」を策定しました。



「防災まちづくり方針」とは？

「防災まちづくり方針」とは、①自分たちのまちの現状、②災害に強いまちにするための目標及び方針、③方針に基づく具体的な取組内容を整理した冊子です。

「防災まちづくり方針」をつくることで、日ごろから災害への備えを心がけたり、町内で防災・減災に取り組むなどして、まちの皆さんで意識を共有し、行政の協力も得ながら、着実に防災まちづくりを進めていくことを目指しています。

「防災まちづくり方針」では、すぐに取り組む「短期的な取組」、時間をかけて取り組む「中長期的な取組」、事前に行う「復興に備える取組」を決めました。「防災まちづくり方針」について、詳しくは裏面をご覧ください。

会議の経緯

■第1回

日 時：平成27年9月13日（日） 午後2時～午後3時30分

内 容：「防災まちづくり方針」って何？ なぜ必要なの？

■第2回

日 時：平成27年11月21日（土） 午後2時～午後3時30分

内 容：26年度までに提案されていた防災・減災の取組を、いつ、誰がやるの？という観点からの整理・検討

■第3回

日 時：平成28年2月6日（土） 午後2時～午後3時30分

内 容：「防災まちづくり方針」の作成



元能見中地区「防災まちづくり方針」の概要

基本目標

災害にみんなで備える住みよいまち

これまでの会議で出された提案をまとめた結果、「災害にみんなで備える住みよいまち」を目標に防災まちづくりを進めていくこととなりました。この目標を達成するために、元能見中地区では4つの方針を立てて取組を進めていくこととしました。

基本方針

- ・子どもから高齢者まで、住みよいまちを目指します
- ・災害に備えて、必要な情報を整理・共有します
- ・防災・減災に関する住民の学び・訓練を促進します
- ・災害に強い施設・設備を整備します

この4つを基本方針として、元能見中地区で行う取組を、全部で14項目決めました。各取組は、実施時期に応じて、①すぐに実行すること、②将来的に実行すること、③震災に備えて取り組むこと、の3つに分けてあります。このうち、昨年度早速実行した取組をご紹介します。

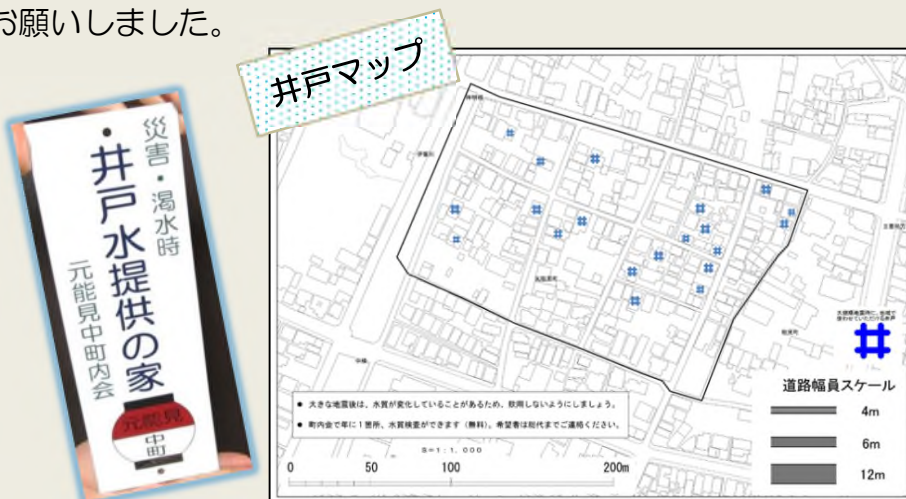
具体的な取組(抜粋)

すぐに実行する取組として、昨年度は井戸・空き家の調査を行いました。

地震等による断水時、生活用水として地域で利用させていただける井戸を把握し、「井戸マップ」にまとめました。

協力いただけるお宅は20件あり、会議で作成したプレートを貼ってもらい、緊急時に井戸を使っても良いという意思表示をお願いしました。

空き家については、地震時に火元となったり、倒壊の恐れがあることから、地図上に整理し、今後の取組に役立てます。



今後の取組

今後は、防災まちづくり方針に基づき具体的な取組を実施していく予定です。

地域の防災力の向上のために、地域と行政が一体となった防災まちづくりに取り組んでいきたいと考えております。

防災まちづくりかわら版

岡崎市 元能見南地区

平成 27 年度 防災まちづくり会議の報告

主催：元能見南、岡崎市

平成28年
5月発行

「平成 27 年度 防災まちづくり会議」を元能見南地区で実施しました！

平成 25 年度から取り組んできた防災まちづくり。今回はそれらを踏まえ、改めてわたしたちが住む町に潜む危険性を知り、対策を深めるための話し合いを行いました。

日 時：平成 28 年 2 月 16 日（火） 18 時 30 分～19 時 40 分

会 場：平八公民館 2 階

参加者：17 名

内 容：① 災害危険度判定について
② わが家の“簡単”防災チェック
③ 今後の取り組み方について

① 災害危険度判定 について

「災害危険度判定」とは、岡崎市が、大規模地震災害（南海トラフを震源とする地震）の被害想定を基に、4つの項目を総合的に判断し、市内の各町丁目の防災性能を評価したものです。

項目は①延焼の危険性 ②消防活動の困難性
③道路通行の困難性 ④一時避難の困難性です。

元能見南地区は、道幅が狭く木造家屋が多いため、市内でも延焼の危険性と道路通行の困難性が高い地域だと説明しました。

総合災害危険度



② わが家の“簡単”防災チェック

さらに、「岡崎市防災ガイドブック」等を参照に、個人でどのような取組ができるか、考えました。その中で、「自宅の耐震チェック」や「防火チェック」などを行い、個人でできる防災・減災対策を確認しました。

ご自宅の耐震チェック

- 建設時期が1981年（昭和56年）6月以降である。
- 過去に大きな震災に遭ったことがない地域である。
- 増築していない。もしくは、建築確認などの必要な手続きを行って増築した。
- 屋根の軒先や床、柱など傷んだところはない。もしくは、傷んだところは、そのつど補修している。
- 建物の平面はどちらかと言うと長方形に近い。
- 一辺が4m以上の大きな吹抜がない。
- 2階の外壁の真下に1階の内壁、または外壁がある。もしくは平家建である。
- 1階の外壁の四方にはどの面にも壁がある。
- 屋根は、瓦など比較的重い葺材だが、1階の壁が多い。または、スレートや鉄板葺銅板葺など、比較的軽い屋根葺材である。
- 鉄筋コンクリート造の基礎に固定されている。

※「岡崎市防災ガイドブック」より抜粋

岡崎市都市整備課市街地整備班

③ 今後の取り組み方 について

元能見中地区及び福寿町の防災・減災への取組を報告し、元能見北地区では何をを行うか、話し合いました。

<主な意見>

- 伊賀川の水が消火活動に使えるのでは？
- 道幅を広げるための課題がある（持ち主の賛同、土地の境界があいまい等）
- 空き家対策をどうするか
- 消火器はすでに設置されている
- 災害時は組長を中心にして対応することになっている。（地区防災計画の代わり）
- 情報がどこにあるかを徹底する
- むこう3軒両隣が大事。災害後の連絡先、対策をとる。 など

■問い合わせ：岡崎市役所 市街地整備課 計画班
電話 23-6280

防災まちづくりかわら版

岡崎市 福寿町

「防災まちづくり方針」策定の報告

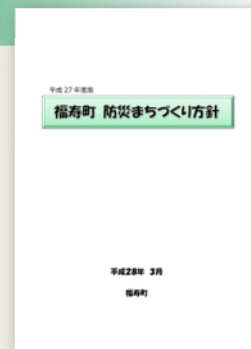
主催：福寿町、岡崎市

平成28年
5月発行

「防災まちづくり方針」を福寿町で策定しました！

福寿町には、稲荷神社や地蔵院など古くからの文化が残る一方で、狭い道路や木造の建物などが多いことから、地震等が発生すれば大きな被害が生じるおそれがあります。

そのため、平成25年度から地域住民主体である「防災まちづくり」に取り組んでおり、昨年度も3回の「防災まちづくり会議」を開催し、そのまとめとして「防災まちづくり方針」を策定しました。



「防災まちづくり方針」とは？

「防災まちづくり方針」とは、①自分たちのまちの現状、②災害に強いまちにするための目標及び方針、③方針に基づく具体的な取組内容を整理した冊子です。

「防災まちづくり方針」をつくることで、日ごろから災害への備えを心がけたり、町内で防災・減災に取り組むなどして、まちの皆さんで意識を共有し、行政の協力も得ながら、着実に防災まちづくりを進めていくことを目指しています。

「防災まちづくり方針」では、すぐに取り組む「短期的な取組」、時間をかけて取り組む「中長期的な取組」、事前に行う「復興に備える取組」を決めました。

「防災まちづくり方針」について、詳しくは裏面をご覧ください。



会議の経緯

■第1回

日時：平成27年9月13日（日） 午前10時～午前11時30分

内容：「防災まちづくり方針」って何？ なぜ必要なの？

■第2回

日時：平成27年11月21日（土） 午前10時～午前11時30分

内容：昨年度までに提案されていた防災・減災の取組を、いつ、誰がやるの？という観点からの整理・検討

■第3回

日時：平成28年2月6日（土） 午前10時～午前11時30分

内容：「防災まちづくり方針」の作成



福寿町「防災まちづくり方針」の概要

基本目標

地域の力でつくる、安心・安全でゆとりあるまち

これまでの会議で出された提案をまとめた結果、「地域の力でつくる、安心・安全でゆとりあるまち」を目標に防災まちづくりを進めていくこととなりました。この目標を達成するために、福寿町では4つの方針を立てて取組を進めていくこととしました。

基本方針

- ・災害時に手助けが必要な人を地域でサポートします
- ・災害に備え、できることからまちを整備します
- ・地域のつながりを強化し、情報を共有します
- ・文化や景観に配慮し、地区の魅力を保全します

この4つを基本方針として、福寿町で行う取組を、全部で15項目決めました。各取組は、実施時期に応じて、①すぐに実行すること、②将来的に実行すること、③震災に備えて取り組むこと、の3つに分けてあります。このうち、昨年度早速実行した取組をご紹介します。

具体的な取組(抜粋)

かねてからの懸案事項であった、老朽空き家が撤去されました。空き地ができ、防災性だけでなく防犯性も向上しました。今年度以降で空き家跡地の使い方について検討していきたいと考えています。

また、倒壊の恐れや衛生上問題のある空き家については市に是正措置を依頼したり、定期的な手入れをしてもらうよう町内会としてルールづくりを行います。



今後の取組

今後は、防災まちづくり方針に基づき具体的な取組みを実施していく予定です。

地域の防災力の向上のために、地域と行政が一体となった防災まちづくりに取り組んでいきたいと考えております。

防災まちづくりかわら版

平成 28年5月 発行

岡崎市 元能見北・中・南、福寿町、松本町 防災まちづくり 5 地区全体会議の報告

主催：元能見北・中・南、福寿町、松本町、岡崎市



「防災まちづくり会議」を5地区全体で行いました

平成 25 年度から取り組んできた防災まちづくり会議について、今年度の成果を話し合う全体会議を行いました。

昨年度は元能見北地区、元能見中地区、元能見南地区、福寿町、松本町の5つの地区が、それぞれに地区の特徴を考えながら独自の防災まちづくりを考えてきました。それらを発表し、他の地区の報告を聞きながら、よりよい防災まちづくりができるよう話し合いました。

- 日 時：平成 28 年 3 月 13 日(日) 午後2時～午後 4 時
会 場：広幡学区市民ホーム 2階
参加者：38 名（ほか 岡崎市職員、コンサルタント等）
内 容：① 各地区の取組紹介(元能見中地区、福寿町、松本町)
② サバイバルごはん試食
③ 意見交換(地区を越えて話す・自分の地区について話す)



① 各地区の取組紹介

昨年度防災まちづくりを進めてきた、元能見中地区、福寿町、松本町の3地区が成果を発表しました。

- 元能見中地区 防災まちづくり方針の作成
消火器・井戸・空き家マップ
福寿町 防災まちづくり方針の作成
松本町 松本町地区防災計画の作成



防災まちづくり方針を作成した元能見中地区と福寿町は、これまでのまちづくり会議でまとめた4つの基本方針及び、それに基づいて行う取組を決めました。取組は「すぐに実行するもの(短期)」、「将来的に実行するもの(中長期)」「震災に備えて取り組むもの」の3つに分かれており、「すぐに実行するもの」の中には、すでに実施されているものもあります。元能見中地区では井戸水を提供してもらう家庭にステッカーをはってもらったり、福寿町では懸案事項だった空き家を撤去し、跡地の活用を考え始めたりしています。



地区防災計画を作成した松本町は、町の特徴を踏まえて、独居老人など老人世帯のケア、避難経路や避難方法の見直し、町の防災役員への女性登用、トイレ問題などの課題を挙げ、「誰が、いつするか」までを含めて検討した結果を説明しました。それらをまとめて地区防災計画を作り、概要版を各戸に配布しました。

② サバイバルごはん試食

被災後、救助が届き始めたりライフラインが復旧し始めるまでに3日かかると言われています。その間はお互いに助け合い、熱源や食料も節約しなければなりません。そこで、そんな時に役立つ非常食や、火や水を節約しながら作れるサバイバルメニューをご用意、実際に試食してもらいました。

「意外においしかった!」「水が欠かせないことが分かった」などという感想がありました。



③ 意見交換

他のまちの取組を聞き、他のまちの皆さんと積極的に意見交換し、わたしたちのまちで、どのように取り組んでいくかについて話し合いました。

【主な意見】

非常食バイキングや
防災農園を作って
人が集まる機会を増
やす

女性に参加しても
らうのはいい考え

今年はこれを
やると決める。
継続が大切。

組長さんの役割は
どこまで?
探すのは無理?

密集市街地は火災
への対応が必要。
消すより逃げる?

井戸マップ
消火器マップ
空き家マップ
が必要

市からの援助(アフ
ターケア)も必要

被災した後のルール作り、
役割分担で対応を時系列
で具体化した方がいい。

本当に支援が
必要な人を把握する
個人情報はどう扱う?

同じようなことを
考えている町が
多い

夜でも避難路が
わかるように、
避難誘導灯の設置
が必要

消火器の設置など
自分のまちでも
すでに実施されて
いることがあった

トイレと発電機が
必要
女性用トイレも。



今後の取組について

この地区は、古くからの伝統や文化が残る祭りを中心としたコミュニティの結びつきの強い地区だと感じております。地域の魅力や文化を残すために、また、防災力の向上のために、地域と行政が一体となった防災まちづくりに取り組んでいきたいと考えております。